

事項	花きにおけるトマト黄化えそウイルス(TSWV)の発生実態																
ねらい	TSWVの発生は、平成10年にトルコギキョウで確認されているが、平成12年からきくを中心として被害が拡大しているため、その発生実態等について取りまとめ防除指導上の参考に供する。																
指導	<p>1 発生確認市町村及び発生確認品目</p> <p>(1) 本県における初発生は、平成10年に尾上町のトルコギキョウで確認された。</p> <p>(2) 今回の調査で発生が確認されたのは、尾上町(初発確認地点からはやや離れている)3地点、平賀町2地点、藤崎町1地点及び五所川原市4地点の合計4市町村10地点であった。</p> <p>(3) いずれの地点でも最初にきくで発生が確認されたのが特徴的であった。</p> <p>(4) 藤崎町ではアスター、トルコギキョウ、スターチスで、平賀町ではアスターでもTSWVによる被害が確認された。</p> <p>(5) 今回の調査では、津軽地域のきくの作付けが多い市町村を中心に発生が確認されたが、このほかの、きくの作付けが多い青森、八戸及び三戸普及センター管内では発生が確認されなかった。</p>																
参考	<p>2 発生確認地点における感染経路等の推定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>推定感染経路</th> <th>地点、品目、品種等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>購入苗あるいは親株導入による感染</td> <td>藤崎町の「神馬」、平賀町Bの「秋大名」、五所川原市A・B(別の侵入経路の可能性もあり)</td> </tr> <tr> <td>苗の移動による発病</td> <td>五所川原市C、Dの「神馬」</td> </tr> <tr> <td>発病株が混入した親株の増殖による多発</td> <td>平賀町Aの「白風」、尾上町Bの「天寿」、「スーパーイエロー」、藤崎町の「神馬」、「精興の望」</td> </tr> <tr> <td>挿穂増殖ほ場における二次感染</td> <td>尾上町Bの「神馬」</td> </tr> <tr> <td>二次感染</td> <td>平賀町A・藤崎町のアスター、藤崎町のトルコギキョウ、スターチス</td> </tr> <tr> <td>保毒アザミウマの移動による感染</td> <td>平賀町Aの小きく</td> </tr> </tbody> </table>			推定感染経路	地点、品目、品種等	購入苗あるいは親株導入による感染	藤崎町の「神馬」、平賀町Bの「秋大名」、五所川原市A・B(別の侵入経路の可能性もあり)	苗の移動による発病	五所川原市C、Dの「神馬」	発病株が混入した親株の増殖による多発	平賀町Aの「白風」、尾上町Bの「天寿」、「スーパーイエロー」、藤崎町の「神馬」、「精興の望」	挿穂増殖ほ場における二次感染	尾上町Bの「神馬」	二次感染	平賀町A・藤崎町のアスター、藤崎町のトルコギキョウ、スターチス	保毒アザミウマの移動による感染	平賀町Aの小きく
推定感染経路	地点、品目、品種等																
購入苗あるいは親株導入による感染	藤崎町の「神馬」、平賀町Bの「秋大名」、五所川原市A・B(別の侵入経路の可能性もあり)																
苗の移動による発病	五所川原市C、Dの「神馬」																
発病株が混入した親株の増殖による多発	平賀町Aの「白風」、尾上町Bの「天寿」、「スーパーイエロー」、藤崎町の「神馬」、「精興の望」																
挿穂増殖ほ場における二次感染	尾上町Bの「神馬」																
二次感染	平賀町A・藤崎町のアスター、藤崎町のトルコギキョウ、スターチス																
保毒アザミウマの移動による感染	平賀町Aの小きく																
内容	<p>3 防除対応上の留意点</p> <p>(1) きくの親株や導入する苗はTSWVが発生していないことが確認されているものを使用する。</p> <p>(2) きくの場合は、TSWVの発生が確認されたほ場の株は親株として使用しない。</p> <p>(3) 育苗あるいはきくの挿穂用親株の維持や増殖は、TSWVの発生が確認されていないほ場で行うとともに、ミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。</p> <p>(4) TSWVの発生が確認された場合は、被害症状発生株の抜き取りと土中に埋めるか、焼却等の処分を徹底するとともに、ミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。</p>																
期待される効果	防除指導上の参考になる。																
利用上の注意事項	<p>1 TSWVの寄主植物は極めて広範にわたる。花きでは、品目が極めて多様化しているのに加えて苗や鉢物での移動が多いので、厳重な注意が必要である。</p> <p>2 被害症状のみでは診断できない場合が多いので、疑わしい症状が見られた場合には、速やかに、フラワーセンターか最寄りの農業改良普及センターに診断を依頼する。</p>																
担当	フラワーセンター21あおり	生産技術部 普及技術部	対象地域 県下全域														
発表文献等	平成13年度 フラワーセンター21あおり 試験成績概要集 第55回北日本病害虫研究発表会で発表予定 平成13年度病害虫発生予察事業年報																

【根拠となった主要な試験結果】

表 花きにおけるTSWVの発生実態

(平成13年 フラワーセあおもり)

発生確認地	発生確認年月日	発生確認品目・品種等	推定される感染経路等	発生概況等
尾上町A	H10/ 9/11	トルコギキョウ	感染経路不明	本県初確認
尾上町B	H13/ 4/26	きく「天寿」、 「スーパーイエロー」	感染経路不明 自家増殖により多発	2棟のパイプハウスで発生確認
	7/ 3	きく「神馬」 (露地の挿穂増殖は)	TSWV発生確認ハウスからの二次感染?	1万6千本全株廃棄
	7/12	きく(品種不明)	二次感染?	パイプハウス間の露地ぎく
尾上町C	H13/ 5/10	きく「精雲」 (尾上町Bと同一生産者)	感染経路不明	ガラス温室1棟で発生確認、発生程度は低い 別のパイプハウスの「濃黄の力」親株でも発生確認
	10/ 9	きく「神馬」 (尾上町Bと同一生産者)	二次感染? 別途持ち込み?	新規購入苗、上記とは別のガラス温室、発生程度は低い
	10/ 9	きく「品種不明」 (上記とは別の生産者)	二次感染? 別途持ち込み?	さらに、別のガラス温室切花終了していたため品種、発生状況等は不明
尾上町D	H13/10/18	きく「神馬」、「寒精雪」	感染経路不明	きくを栽培していた3棟中の2棟で発生確認、発生程度は低い
平賀町A	H13/ 7/12	きく「白風」 (平成3年に導入し自家増殖により株を維持)	感染経路不明 自家増殖により多発	パイプハウス11棟できくを栽培 当該ハウス1棟の発病率高く、 ほぼ全株に発生、全株廃棄
	8/28	きく「神馬」	二次感染?	「白風」とは別ハウス
		アスター	二次感染	ハウス間の露地ほ場
		小ぎく	発生ほ場からの保毒虫の分散による二次感染?	舗装道路をはさんで接する転作畑の露地及び水田をはさんで150m程度離れた転作畑の露地
	9/ 4	きく「陽光」、「黄精雲」	二次感染?	別ハウスでの発生確認
10/22	きく「天寿」、「寒振袖」	二次感染?	別ハウスでの発生確認、「寒振袖」での発病率70%前後で高い	
平賀町B	H13/10/ 9	きく「秋大名」 (新規導入1年目)	苗による持ち込み?	トマト栽培パイプハウス群の中の1棟できくを栽培、当該品種での発病率は10%前後 隣接して栽培されていた「精興の誠」には被害症状みられず
藤崎町	H12/11/10	きく「神馬」	苗による持ち込み? 自家増殖により多発	平成12年に苗購入、約80坪のハウス4棟で発生、被害著しく全株抜き取り
	H13/ 2/22	きく「精興の望」	二次感染した親株の増殖により多発?	前年11月に定植したハウスで発病確認、ハウス内の別のスプレーぎくでも発生確認 「精興の望」、「精の湖」の親株でも発生確認
		トルコギキョウ	二次感染	きく「神馬」でTSWVの被害著しく、抜き取った後の11月に定食、発病率は低い
	5/29	アスター	二次感染	当該地区のハウス内で育苗し、3月に定植
	7/ 3	トルコギキョウ	二次感染	4月定植の株で発生、発生率は10%前後
	11/ 2	スターチス(シヌアータ)	二次感染?	9月上旬購入苗定植、発病率10~20%
五所川原市A	H13/ 4/23	きく「神馬」	4地点とも県外の同一地点から同時に親株導入、親株導入時に持ち込み?	収穫中のパイプハウス1棟と収穫後の株を放置していた1棟の合計2棟で発生を確認 発病率は低い
五所川原市B	H13/ 8/下	きく「神馬」	C、Dの発病はBからの感染苗の移動	パイプハウス2棟で発生確認、草丈30cm前後の若い生育ステージから被害症状確認、9/11調査で挿穂採取用のハウスでも発生確認
五所川原市C	H13/ 9/11	きく「神馬」		パイプハウス1棟で発生確認、発病率極めて低い
五所川原市D	H13/10	きく「神馬」		340坪軽量鉄骨ハウス1棟で発病確認、発病率30%前後